

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：33905

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13202

研究課題名(和文) 日本統治最末期、台湾先住民の島内軍事動員 ― 『留守名簿』を手掛かりとして―

研究課題名(英文) Military mobilization of indigenous Taiwanese people on the island at the final stage of Japanese rule--research the 'absence list'

研究代表者

小野 純子 (ONO, JUNKO)

金城学院大学・文学部・准教授

研究者番号：20847610

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1945年に台湾で結成された在台日本軍(台湾軍のちの第10方面軍)、高砂特設警備部隊に焦点をあて、日本植民地動員体制そして植民地・占領地防衛体制の解明を目指す。本研究では、特定歴史公文書『留守名簿』の分析が重要な鍵となる。報告者は、これまで『留守名簿』の整理と電子化に力を注いできた。コロナ禍で台湾への渡航には制限があったが、国内における調査(国立公文書館など)に加え、他大学の若手研究者らと積極的に研究会を開催し、討論を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

台湾に関する『留守名簿』の研究実績は、報告者以外にほとんどない、未知の領域である。報告者が本研究を遂行し、学会などを通して発信することで、より多くの研究者が『留守名簿』を目にし、台湾史、先住民史の研究者を触発することになったと確信している。本研究により、従来の「高砂族の動員は高砂義勇隊等の部隊を対象とした島外動員が主であった」という既往のイメージを覆す研究(=先住民が台湾島内で多く動員された)となり得る。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the Japanese Army in Taiwan (later the 10th Army) and the 高砂特設警備部隊, which were formed in Taiwan in 1945, to elucidate the Japanese colonial mobilization system and defense system for colonies and occupied territories. An important key to this research is the analysis of the specified historical official document 'Absence list'. I have so far focused his efforts on organizing and digitizing the 'Absence list'. Although there were restrictions on research to Taiwan due to the coronavirus pandemic, in addition to conducting domestic research (at the National Archives, etc.) actively held study groups and held discussions with young researchers from other universities.

研究分野：植民地台湾軍事史

キーワード：日本統治期台湾 軍事動員 先住民 特設警備部隊 大戦末期 植民地軍事史 留守名簿 戦場動員

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、1945年に台湾で結成された在日日本軍(台湾軍のちの第10方面軍)高砂特設警備部隊に焦点をあて、日本軍の先住民動員の実態を解明するものである。それにより、既往の朝鮮人動員・(漢族系)台湾人動員や高砂義勇隊(=東南アジアに派遣された先住民)の研究では収まらない、日本植民地動員体制そして植民地・占領地防衛体制の解明を目指した。

2. 研究の目的

本研究における問いは「1940年代以降、終戦に至るまでの、日本の植民地・占領地の防衛体制の中で先住民族をどのように動員しようとしたのか」ということである。既往の研究では、台湾から島外に送りだされた人々ばかりが注目されている。これは、「志願をして中華民国やその友好国とともに戦った」という事実や「劣悪な環境の下で日本軍のために自らを犠牲にした」という経験が重要視されてきたことによる。しかし、台湾先住民が動員されたのは、実際には「高砂義勇隊」だけではない。そして、南洋で活躍した高砂義勇隊の研究だけでは、一地域の事例に留まり、植民地の防衛体制という枠組みでの先住民族の動員の実態解明には至らない。申請者はこれまでに、『留守名簿』の調査を中心とした研究により、大戦末期の植民地台湾防衛体制に関して史実に近い一定の解を得た。これまでの研究から、既往研究には、研究対象の問題、「日本からの視点」の欠如という2点の課題が内在していると考える。本研究では既往の朝鮮人・台湾人動員や高砂義勇隊の研究のスコープには収まらない、日本植民地動員体制そして植民地・占領地防衛体制の解明を目指す。

3. 研究の方法

本研究は日本国内と台湾でのフィールドワーク調査と文献調査中心に進める。

日本国内の調査では、国立公文書館での『留守名簿』調査を中心に進めた。特定歴史公文書である『留守名簿』のなかでも、台湾関係の名簿に着目し、国立公文書館本館及びつくば分館で調査及び写真撮影を行った。それらの資料を整理・電子化し、分析と考察につなげた。

台湾での調査では、本来、先住民居住地区に赴き、調査をする予定であったが、2022年後半まで台湾への渡航が制限されており、叶わなかった。その後、2023年度に何度か台湾へ行き、中央研究院台湾史研究所、台湾図書館及び国家図書館での資料調査・収集を中心に進めた。

4. 研究成果

本研究は、日本植民地動員体制そして植民地・占領地防衛体制の解明を目指した。本研究では、特定歴史公文書『留守名簿』の分析が重要な鍵となる。報告者は、これまで『留守名簿』の整理と電子化に力を注いできた。コロナ禍で台湾への渡航には制限があったが、国内における調査(国立公文書館など)に加え、他大学の若手研究者らと積極的に研究会を開催し、討論を行った。

台湾に関する『留守名簿』の研究実績は、報告者以外にほとんどない、未知の領域である。報告者が本研究を遂行し、学会などを通して発信することで、より多くの研究者が『留守名簿』を目にし、台湾史、先住民史の研究者を触発することになったと確信している。本研究により、従来の「高砂族の動員は高砂義勇隊等の部隊を対象とした島外動員が主であった」という既往のイメージを覆す研究(=先住民が台湾島内で多く動員された)となり得る。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 小野純子	4. 巻 16
2. 論文標題 日本陸軍第40軍従嘉義地區至 南九州為中心《留守名簿》之分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 嘉義研究	6. 最初と最後の頁 145-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野純子	4. 巻 20
2. 論文標題 「宜蘭農林学校学生動員 - - 特設警備第536大隊『留守名簿』の分析を中心として」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 金城学院大学論集. 人文科学編	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小野純子	4. 巻 19
2. 論文標題 日本統治末期、台湾先住民の島内軍事動員 特設警備第517大隊の分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 金城学院大学論集. 人文科学編	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小野純子	4. 巻 18
2. 論文標題 日本統治末期、台湾先住民の島内軍事動員 特設警備第514大隊の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金城学院大学論集. 人文科学編	6. 最初と最後の頁 26-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野純子	4. 巻 34
2. 論文標題 台湾原住民と動員：『特設警備部隊第513大隊台湾第13887部隊 留守名簿』に関して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化研究	6. 最初と最後の頁 103-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 「服部雄次郎の故事 - 兩個後代的關聯」
3. 学会等名 「97週年校慶校友返校活動;百年校慶紀念酒記者發表會」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 「日治時期：宜蘭農林學徒兵調研 - 特設警備部隊第536大隊『留守名簿』之分析」
3. 学会等名 國立宜蘭大學百年校史系列專題演講;論壇（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 「宜蘭農林學校學生動員 - - 特設警備第536大隊『留守名簿』の分析」
3. 学会等名 第26回現代台灣研究學術討論會
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 「愛知から台湾へ 戦前、実業学校の交流」
3. 学会等名 第1回シンポジウム：名古屋アジア散歩
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小野純子 吳穎濤
2. 発表標題 「侯 孝賢映画『冬冬の夏休み』にみる客家人意識 苗栗を訪ねて」
3. 学会等名 台湾史研究会1月例会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 「愛知県・幸田町に鎮座する中正神社」
3. 学会等名 第3回シンポジウム：名古屋アジア散歩
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 「日本統治最末期；臺灣原住民高砂特設警備部隊之研究」
3. 学会等名 政大台史所創所20週年及2024第七屆臺灣與東亞近代史青年學者國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 特設警備第517大隊『留守名簿』の整理と分析
3. 学会等名 第25回現代台湾研究討論会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 「日本統治末期、台湾先住民の島内軍事動員 特設警備第 514 大隊の分析」
3. 学会等名 日本台湾学会第23回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野純子
2. 発表標題 日本陸軍第 40 軍 從嘉義地區至南九州 為中心《留守名簿》之分析
3. 学会等名 第十六屆「嘉義研究」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------